

米FOMC議事要旨とNZ中銀に注目

2026年7月6日(月)

6月16・17日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)でのタカ派姿勢を受けて広がった米国の早期利上げ期待ですが、2日に発表された6月米雇用統計を受けて期待がやや後退しています。6月の雇用統計は非農業部門雇用者数(NFP)の伸びが予想の+11.0万人前後を大きく下回る+5.7万人にとどまりました。さらに5月分、4月分もそれぞれ4.3万人、3.1万人の下方修正となるなど、かなり弱い結果となりました。この結果を受けて早期の利上げ期待が後退。年内の利上げ回数についても、それまでの「1回か2回か」で見通しが拮抗する状況から、現在は「1回のみ」との見方が大勢を占めるようになっていきます。

こうした状況下、8日に6月FOMCの議事要旨が公表されます。ウォーシュ議長の就任後初の会合となった6月FOMCでは、経済見通し(SEP)の中で示されたドットチャートにおいて、金利見通しを示した18名(ウォーシュ議長は不参加)のうち9名が年内の利上げ見通しを示すという予想外のタカ派優勢な状況や、会合後のウォーシュ議長記者会見での物価安定に向けた強いスタンスなどが目立ちました。一方、声明では議長の意向によりフォワードガイダンスが削除されたため、どこまで強いタカ派姿勢を持っているのか見えづらい部分もあり、今回の議事要旨で今後のスタンスを詳細に確認しておきたいです。

2日の雇用統計を受けて7月の利上げ期待が大きく後退したほか、雇用統計前までほぼ確実視されていた9月までの利上げについても、織り込み度は60%台まで低下しています。公表される議事要旨では、政策金利の先行きだけでなく、雇用をどこまで楽観視していたのか、物価高への警戒感がどの程度強いのかなども併せて確認し、今後の金融政策見通しを占う材料としたいところです。

米国以外の材料としては、同じく8日に開催されるニュージーランド準備銀行(RBNZ)の金融政策会合が注目されます。RBNZは昨年11月の会合で政策金利を現行の2.25%まで引き下げた後、今年に入って3会合連続で据え置いています。ただ、前回5月27日の会合では、政策委員6名の票が据え置き3票、利上げ3票で同数となり、最終的に規定に基づいてブレマン総裁が決定票を投じる形で据え置きとなりました。賛否同数による決定票での政策決定は、RBNZの会合が現行方式となった2019年以来初めてのことです。ブレマン総裁は会合後の会見で「今後の会合で利上げの可能性が高いとみている。もちろんデータの推移、インフレ見通しの変化、リスクバランス次第となる」と発言。さらに据え置き決定から2日後の29日には「インフレ抑制に向けて、政策金利を従来の想定よりも前倒し、かつ大胆に引き上げる可能性が高い」と利上げに積極的な姿勢を見せており、今回の会合では利上げが見込まれています。

ただ、ここにきて原油高が一服し、インフレ上昇圧力が後退していることは警戒材料です。前回の会合で利上げに回ったゴーリー委員は、会合後のインタビューで「遅かれ早かれ変化が起きると予想している」と早期の利上げを示唆する一方、自身が利上げに投票した理由として「中東紛争や貿易相手先の物価上昇などの外部ショックによる国内インフレの上昇圧力」を挙げていました。そのため、原油高が一服した現状では、利上げを主張する根拠がやや弱まっていると言えます。実際、短期金利市場での利上げ見通しも、一時は90%前後で推移していたものの、一時は60%台まで低下し、直近でも75%前後と据え置き予想も一定数存在する状況となっています。また、ブレマン総裁の「大胆に引き上げる可能性」との発言から一部で浮上していた0.5%の大幅利上げ期待も、大きく後退しているのが現状です。

今回の会合におけるポイントは以下の3点です。

1. 大方の予想通り0.25%の利上げとなるかどうか
 2. 再び投票が割れる展開となるかどうか
 3. ブレマン総裁が会合後の会見で、今後の利上げ姿勢についてどこまで踏み込んで言及するか
- 仮に予想に反して据え置きとなり、今後についても「データ次第」の姿勢を強調する慎重な内容となった場合は、NZドル売りが強まる可能性があります。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資判断は、お客様自身の判断と責任によらず、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブソリューションサービス」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブソリューションサービス」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド